

洞爺湖町人口ビジョン（改定案）パブリックコメント意見に対する町の考え方について

パブリックコメント提出者及び意見	町の考え方
① ≪町内在住・男性≫ ・一極集中について 東京一極集中は我々にはどうしようもないこと。できることは一点集中（又は数点集中）。つまり、本町独自のいくつかの取り組み。例えば①とうやコイン②洞爺地区コミュニティタクシー③とうやコネクトタクシー④児童の諸活動へのポイント（町民カレッジパスポート）など、良いことをしているのに町民への利用促進、宣伝が不足している。せっかくはじめてもいつの間にか中止している。大々的に町民に知らしめる必要があると思います。	全国の現状を見ていただければわかる通り、一極集中の改善は難しいことではありますが、そのスピードを少しでも緩やかにするためにも、地方独自の価値や魅力の PR、生み出す取り組みが必要です。ご意見にもある通り、一極集中の改善や地域の活性化等を目指して様々な取り組みを進めていますが、町民の皆様も含めて、まだ多くの方に知られている訳ではない、と感じております。今後もできる限り皆様に取り組みを知っていただけるように、周知、宣伝活動を進めてまいります。 ※所管する他の計画で方向性を示しています。
・出生率等について 人口推移と出生率・数では女性の正規職員が少ない（統計にはありませんが）。女性の働き先の多くは施設や保育所だと思います。どこも臨時職が多く低賃金です。国の基準に合わせていては、この点での改善は見込めません。町独自に援助の術を考えるべきです。女性の正規職員の方が特殊出生率の高いことははっきりしていると思います。国の基準以上の取り組みをして成果が	洞爺湖町では職種が限定されてしまっている（働き口が少ない）現状があります。このことから、起業支援や商工業を活性化するための取り組み等を実施しており、地域の活性化とともに性別に限らず、働き口の増加と賃金の上昇にも寄与できるよう、進めてまいります。

出れば、全国に宣伝し国にも訴えるとよい。 ・世界遺産とジオパークについて 全てのことに言えますが、広報に載せればよしとするのではなく、もっと広く、強く、その利点・大切さを町民に訴える必要があります。	様々なお知らせや、ご案内を広報でお知らせすることに加え、町の SNS やホームページ、郵送などでもお知らせしておりますが、もっと多くの皆様に見えていただけるよう、周知方法も含めて今後も継続した検討を進めます。
・本意見徴集のあり方について 2月広報でお知らせして、2月26日必着では期間が短い。	当パブリックコメントは期間を令和7年2月4日から2月26日までとし、2月4日から役場各庁舎、HP、SNSでお知らせしたのち、2月号の広報でチラシを入れさせていただきました。周知不足もあったようですので、次回以降、もっと多くの皆様に早い段階で見えていただけるよう、周知方法も含めて検討してまいります。
・本意見徴集のあり方について 統計に西暦と和暦を使い分けなくて欲しい。	ご指摘ありがとうございます。統一修正いたします。
② ≪町内在住・男性≫	
・人口ビジョンについて 人口ビジョン改訂の具体的人数の目標が2040年、2060年とでていますが、出生率を上げることは分かりますが、その前にまず、転入と転出が同等というのが今のままでは難しいと感じます。 今の子育て世代の親が、子供が魅力を感じる街でなければなりません。実際に医療費免除のメリットはかなり助かっています。	転入と転出の差である社会増減を0にする目標は人口が減少し続けている日本国内において、難しいところではありますが、ここ数年の洞爺湖町の社会増減数はプラス値に推移する年も出てきています。しかし、少子高齢化社会において出生と死亡の差である自然増減はマイナス値になりますの

ただそれだけでは子供にとっては面白みがなく、いずれ転出した後に帰郷在住までは難しく思います。

例えば近隣で言えば、八雲町では道の駅内に大きな全天候型屋内パーク、近くには屋外アスレチックパークもあり、美味しい飲食店やアイス等デザートもあり賑わっています。子供・孫が父母、祖父母に声かけをして、みんなで出かけられるような仕組みがあります。現在洞爺湖町ではそんな施設はありません。

そこで是非とも、子供が喜ぶ全天候型の遊園パークに、温泉は難しいと思うので昔各地にあった銭湯＋今流行りのサウナを完備させるなど軽食ありのゆったりくつろげる憩いの場というような形態施設があると嬉しいです。

で、その数値が上回り毎年人口が減っています。そこで、ご意見にある通り老若男女問わず楽しむことができる施設や、子育てに関する補助だけではなく、子どもも魅力を感じる町となるよう、今後も検討を進めてまいります。